

May 13, 2019

【前日の為替概況】ドル円、建設的な米中通商協議で109.48円から110.04円まで反発

10日のニューヨーク外国為替市場でドル円は6営業日ぶりに反発。終値は109.95円と前営業日NY終値(109.74円)と比べて21銭程度のドル高水準だった。トランプ米大統領はNY時間10日朝(日本時間10日夜)、ツイッターに「残りの3250億ドル分にも25%の追加関税を課す作業が始まった」「中国との交渉を急ぐ必要はない」などと投稿。3250億ドル分にも追加関税が課されれば世界経済への打撃はさらに拡大するとの懸念から、投資家心理が悪化し株安と円高につながった。ダウ平均が一時350ドル超下落すると、ドル円は109.48円まで値を下げた。しかし、ムニューシン米財務長官が米中貿易協議後に「通商交渉は建設的だった」と述べ、「米国と中国は北京で通商協議を継続することで合意した」との報道、トランプ米大統領の「米中協議は建設的。協議は今後も継続」との発言が伝わると、ダウ平均が190ドル超上昇。市場には楽観ムードが広がり、ドル円は110.04円付近まで値を上げた。もっとも、ムニューシン米財務長官が「現時点では中国との貿易協議の予定はない」と発言したこともあって、110円台を維持することは出来なかった。

ユーロドルは続伸。終値は1.1233ドルと前営業日NY終値(1.1215ドル)と比べて0.0018ドル程度のユーロ高水準だった。4月米消費者物価指数(CPI)が総合・コアともに予想を下回ったことが分かったとユーロ買い・ドル売りが先行。トランプ米大統領のツイートもユーロ買い・ドル売りを促し、一時1.1254ドルと1日以来の高値を付けた。ただ、同日高値の1.1265ドルが目先上値の目処として意識されると伸び悩んだ。米財務長官の「米中協議は建設的」との発言もドル買い戻しを促し、一時1.1228ドル付近まで下押しする場面があった。

ユーロ円は反発。終値は123.52円と前営業日NY終値(123.08円)と比べて44銭程度のユーロ高水準。123.10円付近まで下げたものの、米国株やドル円が持ち直すとユーロ円にも買い戻しが入った。取引終了間際に一時123.60円付近まで上昇し、アジア時間に付けた日通し高値123.62円に迫った。

【本日の東京為替見通し】ドル円、地政学リスクと米中貿易戦争への警戒感から軟調推移か

本日の東京市場のドル円は、朝鮮半島や中東の地政学リスク、米中貿易戦争や自動車関税への警戒感から軟調推移が予想される。

トランプ米政権は、9日の米中通商協議が不調に終わったことで、中国からの輸入品2000億ドル相当に対する関税率を10%から25%へ引き上げた。10日の米中通商協議は合意には至らなかったが、交渉決裂の事態も回避された。しかし、トランプ米政権は、今後3-4週間の内に合意に達しなければ、追加関税の対象外とされた3250億ドル相当の中国製品に対しても25%の関税を課すと警告している。

中国は報復措置を講じると警告しており、対米輸入1100億ドルに関税率を25%への引き上げる可能性、保有米国債の売却の可能性に要警戒となる。

日米通商協議に関しては、今週末5月18日までに、トランプ米大統領が、「通商拡大法232条」に基づく安全保障の観点から、輸入自動車への関税適用の是非を判断する予定となっている。4月の日米首脳会談では、本格的な貿易交渉は、7月の参議院選挙後に先送りされた模様で、自動車関税の適用判断も180日程度の先送りされる可能性が報じられているものの、米中通商協議の不調を受けて、予断を許さない状況が続く。パーデュー米農務長官は、「米国は年間700億ドル規模の対日貿易赤字を抱え続けている」と、対日貿易赤字への懸念を表明している。

さらに、米中通商協議の不調を受けて、米国経済への警戒感が高まったことで、米国債市場では10年債と3カ月物財務省短期証券(TB)金利の差が一時マイナスに転じている。逆イールド現象は、リセッション(景気後退)の前兆とみなされることから、トランプ米政権による連邦準備制度理事会(FRB)への利下げ圧力が強まる可能性も、ドルの上値を抑える要因となる。

毎年4月中旬に発表されている米財務省の為替報告書は、米中通商協議に合わせて発表が先送りされてきたと思われ、今週の発表に要警戒となる。昨年4月の為替報告書では、「円は過去20年の平均よりも約25%安い」と指摘されており、対日自動車関税25%や、「為替条項」に絡んで要警戒となる。

また、北朝鮮が2017年以来となる短距離ミサイルの発射実験を再開したこと、イランによる中東の米軍基地への攻撃の可能性を受けて、トランプ米政権が、空母打撃群をホルムズ海峡に派遣したことも、地政学リスク回避の円買い要因となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 4月外貨準備高
- 14:00 ◇ 3月景気動向指数速報値（予想：先行 96.3／一致 99.6）

<海外>

- 15:00 ◎ 1-3月期ノルウェー国内総生産（GDP、予想：前期比横ばい）
- 16:00 ◇ 3月トルコ経常収支（予想：9億8000万ドルの赤字）
- 22:05 ◎ ローゼングレン米ボストン連銀総裁、クラリダ米連邦準備理事会（FRB）副議長、あいさつ
- 14日 02:20 ◎ カプラン米ダラス連銀総裁、講演
- 香港（釈迦生誕節の翌日）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

10日 09:02 茂木経済財政相
「米中関税協議の動向を注視」
「マーケットや世界経済を見極めて、経済運営に万全を期す」

10日 11:26 ホワイトハウス報道官
「トランプ米大統領、中国との通商交渉についてライトハイザー米通商代表部(USTR)代表とムニューシン米財務長官と協議」
「米通商代表と財務長官、劉鶴中国副首相と10日午前協議継続で合意」

10日 11:50 劉鶴中国副首相
「事態の打開は、米中首脳の話し合い次第」
11日 01:41
「米国との通商交渉は非常に順調だった」

10日 13:15 中国政府
「米中が通商問題で歩み寄ることを期待する」
「米国の関税引き上げに対して対抗措置を取る」
「米中が現在の問題を交渉で解決することに期待する」
「米国の対中関税引き上げは非常に遺憾」
「米中の通商交渉は継続中」

10日 19:58 トランプ米大統領
「中国との交渉は急ぐ必要はない」
「中国が交渉のやり直しを再び試みないことを望む」
11日 04:18
「米中協議は建設的。協議は今後も継続」

10日 20:07 ハモンド英財務相
「メイ首相を辞めさせることでブレグジットの行き詰まりは解決できない」
「米中通商問題の緊張の高まりは残念」

10日 21:19 ジョーダン・スイス国立銀行(スイス中銀、SNB) 総裁
「インフレ期待は2%をはるかに下回っている」
「バランスシートの拡大は価値がある」

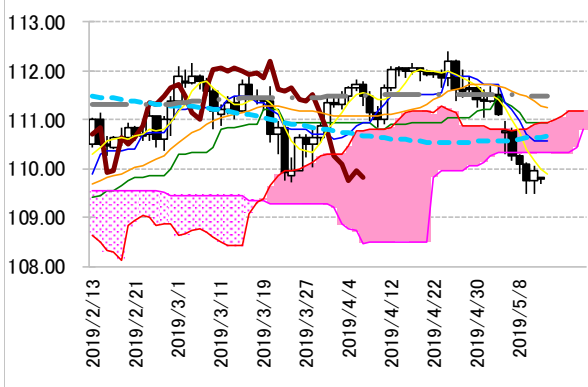
10日 22:29 ポスティック米アトランタ連銀総裁
「我々はインフレ目標に非常に近づいている」
「インフレが抑制出来ない場合、行動する必要」
「FRB当局者全員が金利に対して忍耐強くあるという心境」

10日 23:28 ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁
「インフレの低下が正常なボラティリティを反映する」
「我々の政策は適切」
「労働市場がインフレ率2%回帰をサポート。インフレ圧力の兆候はない」
「2019年GDP成長率は2.25%の持続的成長を見込む」
「貿易摩擦とブレグジットの不確実性が下振れリスク」

11日 01:06 ムニューシン米財務長官(CNBCが報じた)
「中国との通商交渉は建設的だった」
「今日のところは協議終了」
11日 04:43
「現時点では中国との貿易協議の予定はない」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

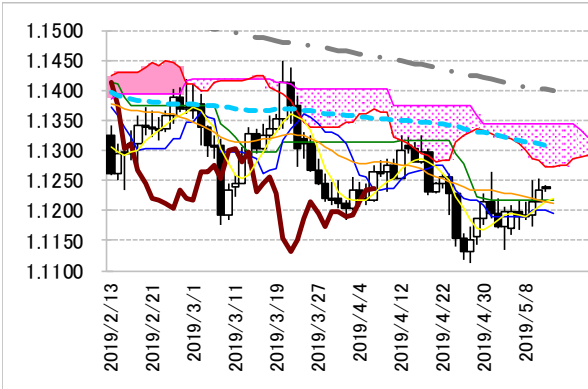


<ドル円＝一目・雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下抜けたことで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。ダブル・トップ（112.14円・112.40円）形成後の窓（3日安値111.07円・6日高値110.96円）空けで下落トレンドの可能性が高まりつつある。しかし、底値圏での孕み線で反発の可能性に要警戒か。

本日は、一目・雲の上限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	110.58(日足一目均衡表・転換線)
レジスタンス 1	110.32(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	109.95
サポート 1	109.47(5/9 安値)
サポート 2	108.50(1/31 安値)

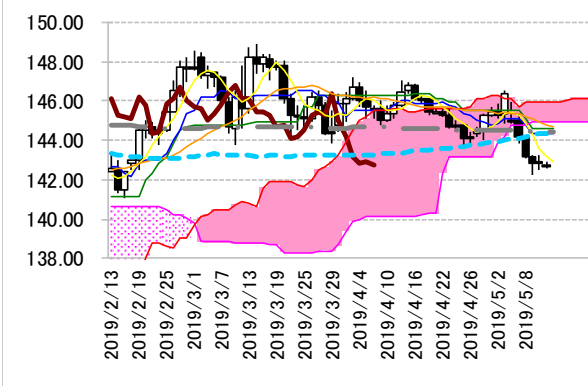


<ユーロドル＝3日の安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。遅行スパンは実線を上回っているものの、一目・転換線は一目・基準線を下回り、雲の下で推移していることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。本日の終値が1.1262以下ならば、遅行スパンが逆転して三役逆転の強い売りシグナルが点灯することで要警戒か。

本日は、3日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1274(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	1.1233
サポート 1	1.1135(5/3 安値)

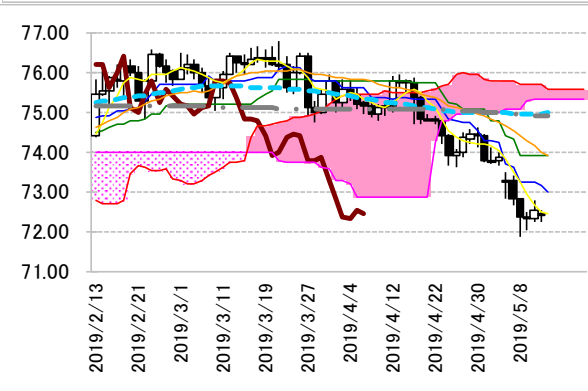


<ポンド円＝一目・転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、底値圏での孕み線で反発の可能性に要警戒か。

本日は、一目・転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	144.37(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	142.90
サポート 1	142.24(5/9 安値)



<NZドル円＝一目・転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、底値圏での抱き線で反発の可能性に要警戒か。

本日は、一目・転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	73.15(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	72.54
サポート 1	71.85(5/8 安値)

